

JAPANESE ASSOCIATION
FOR CANCER DETECTION
AND DIAGNOSIS



Vol. 6
No. 2

特定非営利活動法人
日本がん検診・診断学会

<<<<< 目 次 >>>>>

学会からのTOPICS

日本がん検診・診断学会理事長を拝命して	1
役員名簿(理事・監事・代表幹事)	2
日本がん検診・診断学会の将来を見据えて	3
理事からのご挨拶	3
理事長の退任に当たって	4
第25回日本がん検診・診断学会総会を開催して	4
第12回がん検診認定医講習会および試験について	6
第11回がん検診認定医習熟講習会のご案内	6
第26回日本がん検診・診断学会総会開催のご案内	7

関連学術集会等のお知らせ

『前立腺がん検診ガイドライン 2018年版』パブリックコメントを募集のお知らせ	7
---	---

学会からのTOPICS

日本がん検診・診断学会理事長を拝命して

森山光彦(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野 教授)



この度、金子昌弘理事長に代わりまして、日本がん検診・診断学会理事長を拝命いたしました。若輩ではありますが、皆様方のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

現在我が国のがんの疫学は、死因別には第一位で約37万人であり総死亡数のおよそ3割となっています。2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががん関連死亡する現状であります。臨床的には、進行癌に対する治療薬として分子標的薬や免疫調整薬の開発により、生命予後は延長しているとはいえ、長期生存にはほど遠い状態にあります。したがって癌死亡数の減少には、がんの早期発見と早期治療が重要な要素となります。この点において、大きな役割を果たすのががん検診であります。このような重要な時期に本学会の理事長を引き受けることになり、改めて身の引き締まる思いであります。

日本がん検診・診断学会は、平成3年に「日本消化器集団検診学会」有賀槐三理事長の呼びかけで「日本婦人科がん検診学会」「日本肺癌学会」の3学会から「がん検診協議会」が創設されました。その後、主旨に賛同された「日本腎泌尿器疾患予防医学研究会」「日本乳がん検診学会」「日本小児がん学会」「日本医学放射線学会」が参加して計7学会により、平成6年「日本がん検診・診断学会」が設立されました。

学会のホームページにも紹介されていますが、本学会設立の主旨は、「現在我が国にはがん検診に携わっている学会は多数があるが、いずれも共通の連なりがない。癌学会、癌治療学会と横並びに検診・診断を主体にしたがん検診・診断学会は必要であり、これによってがん検診・診断の発展が期待できる。」ということにあります。すなわち、がん検診には共通する問題も多いにも関わらず、それらについて合同で討議する場がありませんでした。本学会は、「各種がん検診に共通した諸問題、特にがん診断学、検診方法、精度管理、検診の評価及び行政の対応などについて協議し日本におけるがん検診の発展に寄与する」という趣旨のもとに活動しているわけであります。

実務的には、各種委員会をより充実させて、各分野横断的な手法についての討議の場を設けること、新技術を取り入れた革新的なモダリティの紹介と検討の場を設けること、最新のがんの疫学と統計を解説する場を設けること、認定医制度の充実を図ること、などについて積極的に取り組みたいと思います。

さらにこれらの実践により、メールマガジンをより活性化させること、さらには学術集会にて報告することなどにより、会員および社会に最新のがん対策について啓発すること、を考えております。さらには学会発展の方略としては、まずは評議員の増員を行い会員数の増加を図りたいと思っております。

金子昌弘前理事長も申しておられましたが、本学会は7分野の専門家の集まりですが、各専門分野の交流をより図ることにより、この学会のことを常に第一に考える会員を増やしていきたいと思っております。

会員各位のますますのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

役員名簿

役職	新・再	氏名	専門分野	所属機関
理事	再任	森山 光彦	消化器がん	日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野
理事	再任	青木 大輔	婦人科がん	慶應義塾大学医学部産婦人科
理事	再任	池田 徳彦	肺癌	東京医科大学外科学第一講座
理事	再任	一瀬 雅夫	消化器がん	帝京大学医学部附属新宿クリニック
理事	再任	井上登美夫	放射線科	横浜市立大学大学院医学研究科放射線医学
理事	再任	遠藤登喜子	放射線科	国立病院機構 東名古屋病院乳腺外科
理事	再任	小川 眞広	消化器がん	日本大学医学部 内科学系消化器肝臓内科分野
理事	再任	片岡 健	乳癌	広島大学大学院医歯薬保健学研究院成人健康学
理事	再任	齋田 幸久	放射線科	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科画像診断・核医学分野
理事	再任	佐々木 寛	婦人科がん	千葉徳洲会病院婦人科
理事	再任	鈴木 和浩	腎泌尿器	群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学
理事	再任	高橋 悟	腎泌尿器	日本大学医学部泌尿器科
理事	再任	田村 正三	放射線科	医療法人社団聖山会 川南病院
理事	新任	檜山 英三	小児がん	広島大学病院小児外科
理事	再任	麦島 秀雄	小児がん	川越予防医療センタークリニック
理事	再任	室谷 哲弥	婦人科がん	こころとからだの元氣プラザ婦人科
理事	新任	山田 耕三	肺癌	神奈川県立がんセンター
理事	再任	横江 隆夫	乳癌	国立病院機構 渋川医療センター乳腺・内分泌センター
理事	再任	芳野 純治	消化器がん	医療法人 松柏会 大名古屋ビルセントラルクリニック
理事	再任	吉原 正治	消化器がん	広島大学保健管理センター
監事	再任	楠本 昌彦	放射線科	独立行政法人 国立がん研究センター 東病院放射線診断科
監事	再任	三木 恒治	腎泌尿器	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院
代表幹事	再任	伊藤 一人	腎泌尿器	群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学

日本がん検診・診断学会の将来を見据えて

青木大輔(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室 産婦人科学)



日本がん検診・診断学会の理事として思うところを述べさせていただきます。私の専門は産婦人科学であり、婦人科臓器における検診として成立しうるものが証明されている子宮頸がん検診においては、決して検診(細胞診)の実施だけを切り取ってワンポイントで判断をしてはいけないことを常々申し上げております。これは、他のがん検診においても同様です。

第一に、がん検診の対象者は健常人であり、日常診療で接する患者とは明確に区分して扱う必要があります。健常人からがんが発見されることは稀であります。国民の大部分を占める該当がんではない人々が検診を受けたことによって、検診を受けなければ被ることのない不利益を最小化し、検診による効果を最大化する努力が必要です。この目的を達成するために検診事業の実施体制や運営を適正化する方向性を打ち出すことが、本学会の最たる使命であると思っております。

また新たな手法による検査を、その有効性を含めた効果の確認なく、安易に「検診」として実施してしまうわが国の状況は好ましいとは思えません。今日では、検診が効果を上げるには、スクリーニングの実施のみならず、その後の精密検査やフォローアップ、治療を含めてアルゴリズムを確立してその全過程を把握することが、いわゆる検診先進国では当然のように求められています。この点でわが国は立ち遅れています。本学会は「日本がん検診・診断学会」であることから、検診以降のアルゴリズムについても精度管理の必要性を啓発していける存在としての可能性を有していると考えます。

最後にわが国の逼迫した問題であるデータ管理体制の欠如について、そもそも議論の土台となる検診に関連する一連のデータが乏しいわが国では事のよし悪しを判断する術すらほとんどないままに今日まできている気がします。たとえば、がん検診対象者集団の検診成績とがん登録との突き合わせや対象者全体の当該がんの予後などがあります。がんの種類を超えて集う本学会の方々がその点を強く認識し、ここは基本に立ち返って、何が問題なのか会員諸氏とともに考えてゆきたいと思っております。

理事からのご挨拶

池田徳彦(東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科 主任教授)



本学会で検診と診断を主に勉強する良い機会に恵まれておりましたが、2010年より理事会に加えていただきました。重要なテーマとして複数の領域の横断的統合があり、呼吸器外科医の私も専門外の領域に関して内容を理解するように努めているうちに、種々の知識が自然と身についているのに気が付きます。肺癌領域では近年は早期癌の増加が顕著であり、理想的な検診方法や小型陰影の確定診断の方法などを考え直す良い機会と思っております。早期診断が良好な治療効果かつ低侵襲治療に直結しますので、迅速かつ正確な診断は時代の要請でもあります。今後は臨床情報、AIを利用した画像の進歩、遺伝子の網羅的解析などを有機的に一体化させ、画像から良悪性の判定は言うに及ばず、悪性度評価、遺伝子異常なども予測可能な「Radiomics時代」も到来するでしょう。本学会はそれぞれの領域の第一人者が集う場ですので、普遍的な知識を確認しつつ新技術の吸収、応用がしやすいという大きな魅力を有しています。

会員の皆様が互いの知識を共有し、常に新たな医学情報を得られる場となりますよう、努力して参る所存です。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

理事長の退任に当たって

金子昌弘((公財)東京都予防医学協会保健会館クリニック 所長)



2011年、平成23年の理事会におきまして、荒川前理事長の後任として理事長に推挙され、6年間にわたり学会のため微力ながら尽くしてまいりました。この間大過なく過ごしてこられましたのも、副理事長はじめ、理事、監事、代表幹事、評議員、会員の皆様のご支援と、毎年の学術集会を主催してくださった各会長と学術集会、認定医講習会および習熟講習会でご講演いただいた多くの方々、学会誌へ貴重な研究成果を投稿していただき編集いただいた皆様のご協力のおかげと心から感謝しております。

さて、あらためてホームページで就任時のあいさつを見直しますと、荒川前理事長の路線を踏襲しつつ、さらに内部および外部への活性化を図ることを目標として掲げておりました。

内部の活性化としては、運営委員会を新たに作り、理事会や総会の運営の準備などを行っており、メールマガジンに関しても定期的に発行することにより、会員各位の学会への帰属意識を高めるのに役立っていると考えます。また、小川理事を中心にした認定制度委員会の努力でホームページ上に認定医の在籍する施設が表示されるようにもなりました。

一方、外部への活性化として、がん検診受診率向上を目指して厚生労働省や各自治体への働きかけ、市民公開講座や一般市民向けのホームページの拡充などを挙げておりましたが、ホームページをのぞいては残念ながら十分な成果を上げることはできませんでした。

本学会はがん検診に関連する7団体(日本消化器集団検診学会、日本婦人科がん検診学会、日本肺癌学会、日本腎泌尿器疾患予防医学研究会、日本乳がん検診学会、日本小児がん学会、日本医学放射線学会)を母体として発足したため、発足当初はそれぞれの団体との連絡も密に行われており、理事なども各組織からの推薦を受けておりましたが、最近は独立の機運がたかまり、母体組織との連携が疎になりつつあるように思われます。

森山理事長をはじめとする新執行部の皆様には、ぜひこの学会設立の理念に立ち返り、母体組織との連携を通じて、本学会の認知度を高め、会員数の増加を図るとともに、それを背景にして対外的に活動できる力をつけていただけるよう、心から願っております。

第25回日本がん検診・診断学会総会を開催して

会長 片岡 健(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 成人健康学 教授)

本年8月26日・27日の2日間、第25回日本がん検診・診断学会総会を広島大学広仁会館および保健学研究科棟(広島市広島大学霞キャンパス内)で開催させていただきました。残暑の厳しい中、全国から200名余りのがん検診に係る医師をはじめとした医療関係者の参加をいただき、無事終了することができたと思います。なお、第12回がん検診認定医講習会も8月26日に保健学研究科会議室で行い、22名の医師が参加されました。

今年の学術総会のテーマを「我が国でのがん検診の現状と将来への課題」とし、特別講演2題、教育講演1題ほか、シンポジウム2つ、パネルディスカッション1つ、ワークショップ2つとともにランチョンセミナー4つ、イブニングセミナー2つ、一般演題12題のご発表があり、非常に有意義な学会となりました。

特別講演では、大内憲明先生(東北大学大学院医学系研究科名誉教授)からの「大規模ランダム化比較試験J-START:日本のがん対策を推進するために」のご講演では、近い将来での対策型乳がん検診への超音波検査の導入に向けた課題と今後のがん検診のあり方について、また、成澤林太郎先生(新潟県立がんセンター新潟病院がん予防総合センター長)の「安全で精度の高い胃内視鏡検診のコツ」のご講演では、2016年より対策型胃がん検診に導入された胃内視鏡検査の手技と課題についてご講演をいただきました。教育講演では田中純子先生(広島大学大学院医歯薬保健学研究科疫学・疾病制御学教授)から「がん検診における医学統計学的・疫学的アプ

ローチ」という題名で、肝がん検診成績結果に基づいた各がん検診の疫学的調査や研究手法について学ぶことができました。

2つのシンポジウムでは「各種がん検診の現状と課題」、「各種がん検診の医療行政・医療政策について」というテーマで、胃・大腸・肺・乳腺・子宮頸部・前立腺・小児の各がん検診における課題と今後の対策・提言などがなされ、特に医療機関と行政や医師会などが密に連携し信頼関係を築くこと、また受診勧奨の方策について議論されました。パネルディスカッションは1つでしたが、各種がん検診の精度管理とともに過剰診断・過剰治療について活発な議論がなされたと思います。ワークショップ2つでは各領域の内視鏡検査および乳腺の新しい検査法について、それぞれ5名ずつのご発表をいただき、がん検診への導入に対する期待とその問題点について議論されました。ランチョンセミナーやイブニングセミナーにおいても著名な先生方のご講演を賜りました。

今年の学術総会では、がん検診受診者が徐々に増えている職域を含めた任意型検診の精度管理と標準化、昨年より対策型検診に導入された胃内視鏡検査や今後対策型にも導入されるであろう乳腺超音波検査の医師・技師確保とその教育、胃・前立腺がんなどのリスク評価による層別化、肺・前立腺・乳腺・小児がんなどにおける過剰診断・過剰治療、子宮頸がん(HPV)・胃がん(ピロリ菌)・肝臓がん(HBV/HCV)などの0次予防、内視鏡による大腸がん検診や低線量CTによる肺がん検診の導入の可能性などについて議論され、我が国のがん検診でもっとも重要かつ課題としては、受診勧奨の推進と医療機関・行政・医師会等の密なる連携と信頼関係構築であることが総括されました。

私が専門とする乳腺外科のみならず、幅広い領域において、がんを早期発見し治療すること、また過不足の無



学会の立て看板(広仁会館前)



学会長(片岡)の開会挨拶



シンポジウムでの1シーン



金子学会理事長よりの感謝状贈呈式

い低侵襲手術や副作用の少ない薬物治療に対する国民からの要望や期待も高くなっています。一方、がん検診においても、次々と新しいモダリティ技術や遺伝子診断に関する報告とともに、精度管理や過剰診断・過剰治療の課題についても数多くの議論がなされてきています。本学術総会を終えた今、我々は個別化検診に向けたこれまで以上に質の高い検診を行うとともに、科学的根拠に基づいたがん検診を提供し、また新しい診断技術の開発や、国民や社会へのがん検診に関する正しい情報などを提供し、より多くの方が適切かつ有効ながん検診を受けられるよう推進し、整備していく必要性をあらためて考えさせられました。

最後に、本学術総会を開催するにあたり、多くのご助言とご提案をいただき、また司会やご発表いただきました理事・評議員はじめ会員の皆様並びに各専門分野の諸先生方に、深く感謝申し上げます。

第12回がん検診認定医講習会および試験について

小川眞広(認定医制度委員長 日本大学病院消化器内科)

この度、2017年8月26日(土曜日)に第12回日本がん検診・診断学会認定医講習会および試験が施行されました。第25回総会(会長:片岡健 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授)の会期中に今年も併設し広島大学霞キャンパス内 保健学研究科棟にて施行され、受験および聴講の総勢22名の先生方の参加頂き無事終了したことを報告させていただきます。

本学会は、主にごがん検診を中心に活動をする日本消化器がん検診学会、日本腎泌尿器疾患予防医学研究会、日本肺癌学会、日本婦人科がん検診学会、日本乳がん検診学会、日本小児血液・がん学会、日本医学放射線学会の7学会が集まり各種がん検診に共通した諸問題、特にごがん診断学、検診方法、精度管理、検診の評価及び行政の対応などについて協議し日本におけるがん検診の発展に寄与することを理念としています。この中で生まれた本学会の認定医は、検(健)診受診者が適切な判定および事後指導が均質に受けられるように、がん検診のgeneralistの育成を目指した制度です。つまり各領域別の専門家は多いが全身の癌について適切に判定のできる医師は少ないということに着目した認定制度です。検診で複数の異常値を認める場合も少なからずありこの場合の優先順位などを適切に受診者に対し事後指導を行うことができる医師を育て世の中に輩出することを目的としています。

また、この講習会のもう一つの魅力はこれだけの広範囲に渡る癌診断にかかわる最新の知識が1日にまとめてリニューアルできる機会になっているということです。今回は、胃・大腸がん特に内視鏡の医療事故・訴訟の事例を用いて広島大学保健管理センター日山亨先生より講義があり、肺癌について広島大学病院腫瘍外科津谷康大先生、乳がんについて広島大学病院乳腺外科角舎学行先生、小児がん検診について広島大学病院小児外科の檜山英三先生、放射線医学について友仁山崎病院の高橋雅士先生、婦人科がん検診について杏雲堂病院の坂本優先生、泌尿器がん検診について群馬大学医学部泌尿器科の伊藤一人先生、超音波がん検診について私、小川眞広(日本大学病院消化器内科)の8演題の講義を聴講し明日からの健(検)診に即役立つ情報を吸収していただいたと思っております。

また、学会とは別に習熟講習会を開催しており毎年約2名の先生にお話を頂いています。次回は2018年1月20日(土)に御茶ノ水の日本大学病院で開催を予定しています。詳細につきましてはホームページで確認いただければと思います。是非、振ってのご参加をお待ちしております。

第11回がん検診認定医習熟講習会のご案内

この度、がん検診認定医の方々およびがん検診に関わる医師を対象に、日本がん検診・診断学会習熟講習会を下記の要領で開催いたしますので、認定医資格を得られた方は是非ご出席くださいますようご案内いたします。本講習会を受講されますと、5年後の資格更新に必要な教育研修単位合計50単位のうち25単位を取得できます。

多数の方々のご出席をお待ちしております。

日 時：平成30年1月20日(土) 14:00～17:20 (開場13:30)

場 所：日本大学病院5階大会議室

講 師：日山 恵美(広島大学 大学院法務研究科 教授)

「タイトル未定」

落合 淳志(国立がん研究センター 先端医療開発センター センター長)

「がん微小環境の理解と、微小環境標的を目指した新たな診断・治療法の展望」

受講料：5,000円(当日会場で徴収します)

※ホームページにて受講申し込み受付中です。http://npo.jacdd.org/index.php?page=info_a04117

第26回日本がん検診・診断学会総会開催のご案内

会 長：高橋 悟(日本大学医学部 泌尿器科 教授)

会 期：平成30年9月7日(金)、8日(土)

会 場：日本大学会館(〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24)

テーマ：今、社会が求めるがん検診のかたち

演題募集期間：2018年4月2日(日)～5月31日(木)

第26回日本がん検診・診断学会総会HP：

<http://npo.jacdd.org/soukai26/>



関連学術集会等のお知らせ

『前立腺がん検診ガイドライン 2018年版』 パブリックコメントを募集のお知らせ

日本泌尿器科学会では『前立腺がん検診ガイドライン 2018年版』作成に伴い、パブリックコメントを募集しています。

期間は10月23日(月) 10:00から10月30日(月) 10:00までです。

日本泌尿器科学会HP <http://www.urol.or.jp/top.html>のお知らせ欄よりご意見をお寄せください。

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2017年10月23日発行 Vol. 6 No. 2

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F (株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/